

国土利用計画（朝日村計画）に関する 村民アンケート調査結果

1.調査概要

（1）目的

本アンケート調査は、朝日村の土地利用の指針となる「朝日村国土利用計画」の策定にあたり、村民の意見を反映した計画づくりを進めるため、課題と今後の土地利用のあり方についての意向を把握することを目的としている。

（2）調査方法

調査対象者：20 歳以上の村内在住者

調査地域：村内全域

標本数：1,000 人（無作為抽出）

抽出法：住民基本台帳より無作為に抽出

調査方法：郵送による発送、回収

調査時期：平成 28 年 10 月

（3）回収結果

総配布数：1,000 通

総回収数：592 通

回収率：59.2%

（4）集計方法

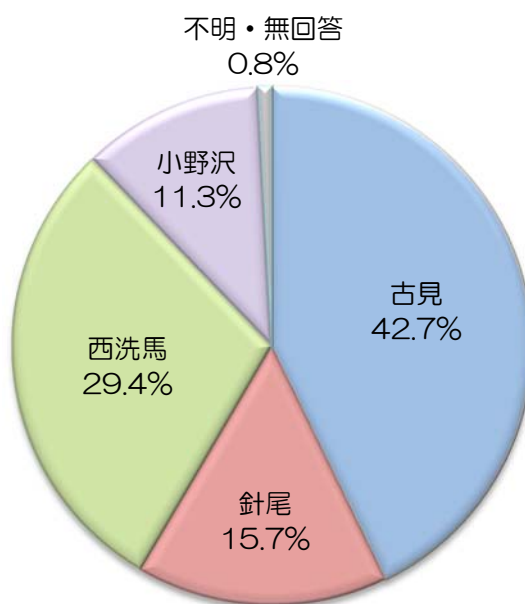
- 回答構成比は百分率で算出し、表示は少数点以下第 2 位を四捨五入し、1 位まで表示する。
- クロス集計に用いる回答者の属性は、「不明」、「未記入」を除く回答を有効回答とする。
- 設問の中で長文となっている項目は、表・グラフ等の作成上の都合により簡略化しているものがある。
- 地区別の集計について、サンプル数が少ない地区も存在するため、サンプル数の少ない地区の集計結果は、あくまで参考となるべき性格のものである。
- 複数回答の設問では、回答比率の合計が 100%を超えることがある。

2.集計結果

属 性

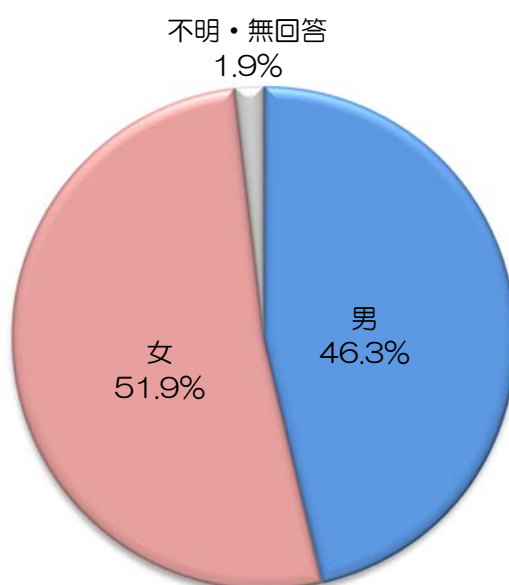
居 住 地

- ◎ お住いの地区については、『古見』（42.7%）が最も多く、次いで『西洗馬』（29.4%）、『針尾』（15.7%）の順となっている。



性 別

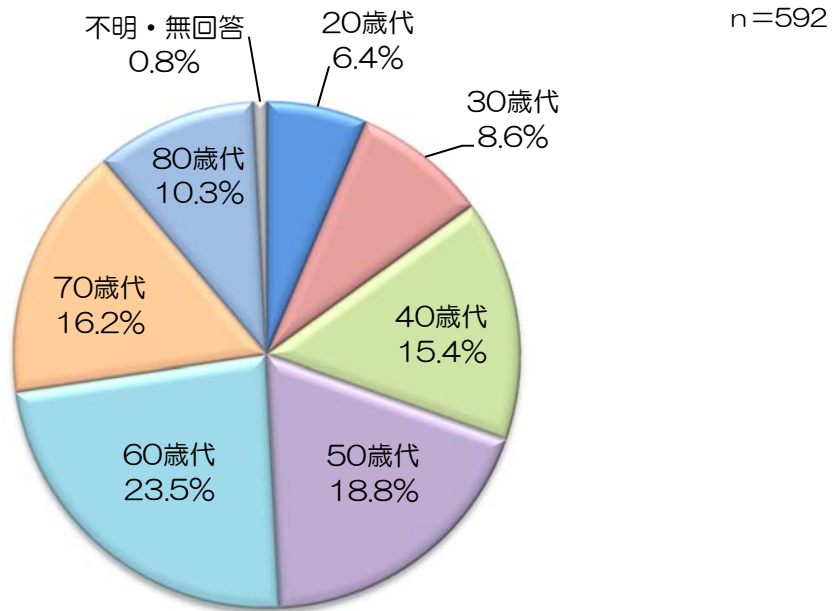
- ◎ 回答者 592 人を男女別でみると、『男性』（46.3%）、『女性』（51.9%）となっており、やや女性の回答者が高めである。



n=592

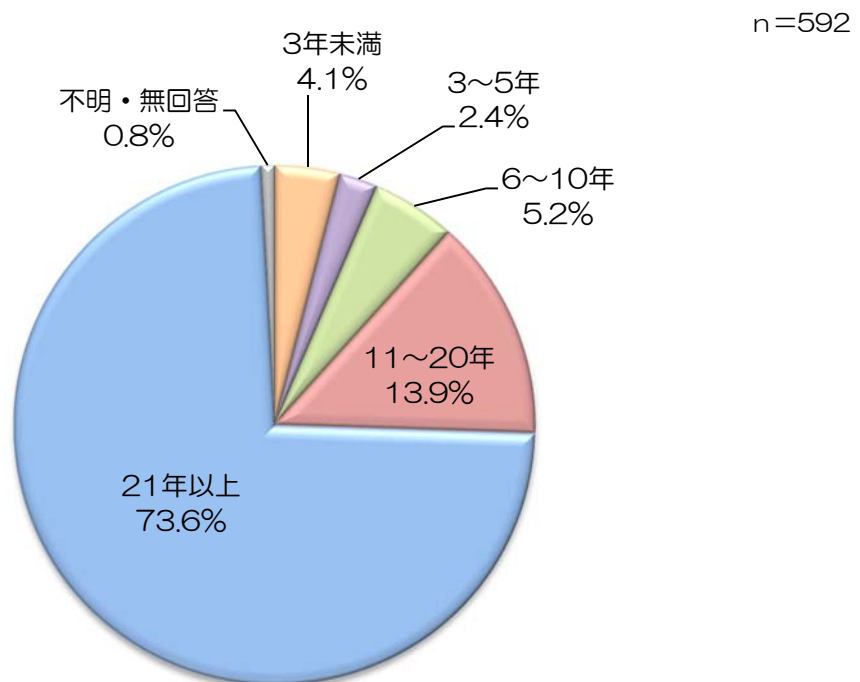
年 齢

- ◎ 年齢別では、『60歳代』（23.5%）が最も多く、次いで『50歳代』（18.8%）、『70歳代』（16.2%）となっており、50歳以上の回答者が全体の約7割を占めている。



居住年数

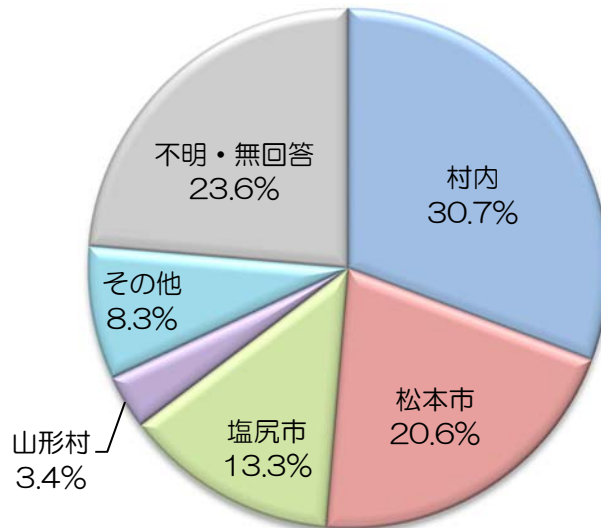
- ◎ 村内の居住年数では、全体の7割以上が『21年以上』（73.6%）居住しているとしており、次いで『11年～20年』（13.9%）、『6～10年』（5.2%）の順となっている。



就業地・通学地

- ◎ 就業地または通学地については、『村内』(30.7%) が最も多く、次いで『松本市』(20.6%)、『塩尻市』(13.3%) の順となっている。なお、『不明・無回答』は 23.6% であった。

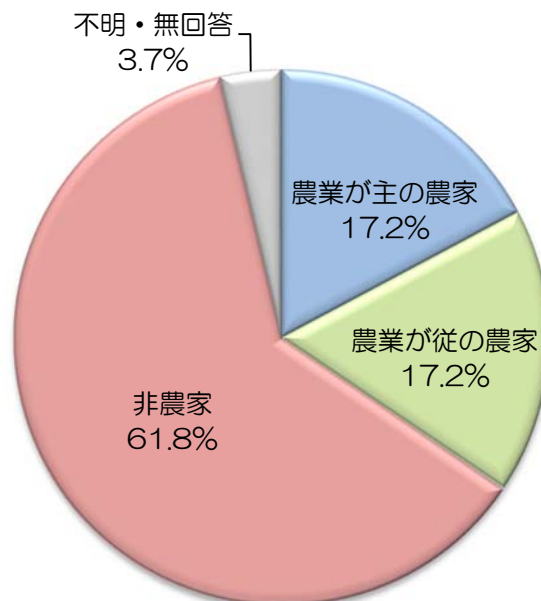
n=592



農業形態

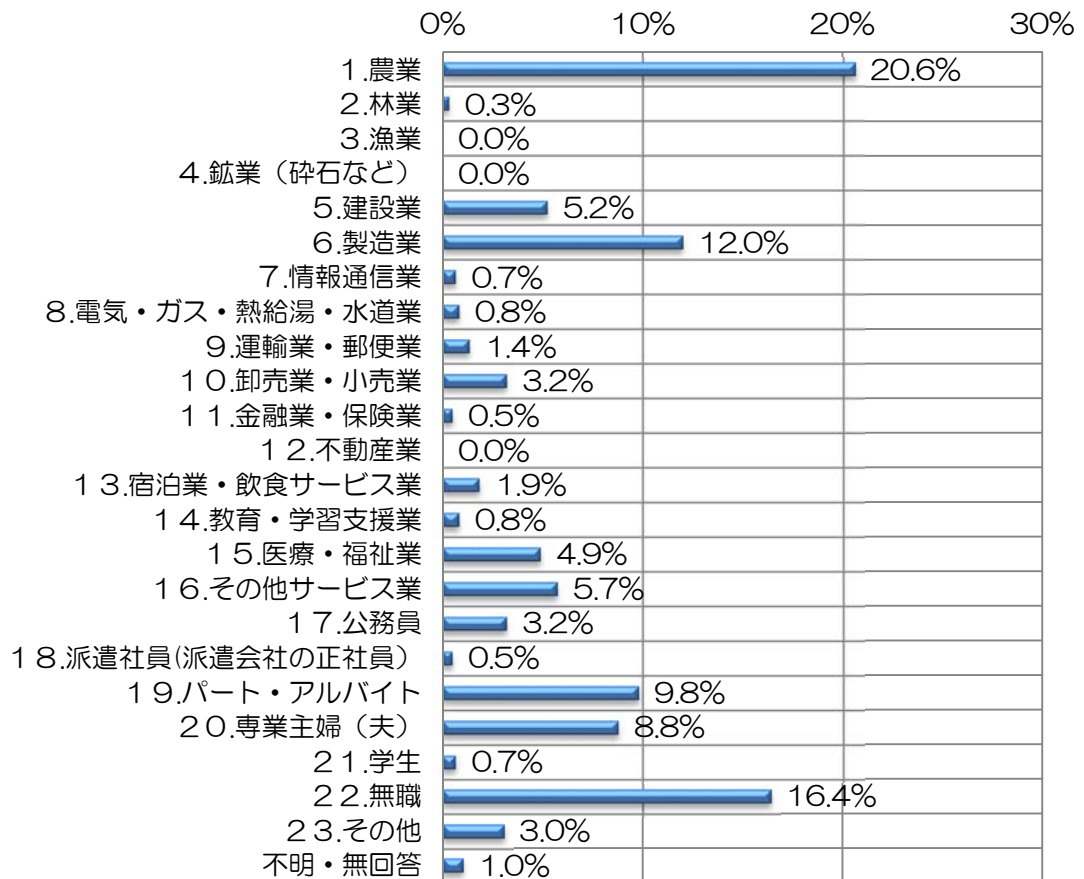
- ◎ 農業形態については、『非農家』(61.8%) が全体の約 6 割を占めている。次いで『農業が主の農家』(17.2%)、『農業が従の農家』(17.2%) とし、同じ割合となっている。

n=592



職 業

- ◎ 職業では、『1. 農業』(20.6%) が最も多く、次いで『22. 無職』(16.4%)、
『6. 製造業』(12.0%) 『19. パート・アルバイト』(9.8%) の順となっている。



その他

・団体職員 ・養鶏業 ・住職 ・臨時職員 ・嘱託職員

複数回答（n=601）（人）

1. 農 業	122	9. 運輸業・郵便業	8	17. 公務員	19
2. 林 業	2	10. 卸売業・小売業	19	18. 派遣社員	3
3. 漁 業	0	11. 金融業・保険業	3	19. パート・アルバイト	58
4. 鉱 業	0	12. 不動産業	0	20. 専業主婦(夫)	52
5. 建設業	31	13. 宿泊業・飲食サービス業	11	21. 学 生	4
6. 製造業	71	14. 教育・学習支援業	5	22. 無 職	97
7. 情報通信業	4	15. 医療・福祉業	29	23. その他	18
8. 電気・ガス・熱給湯・水道業	5	16. その他サービス業	34	不明・無回答	6

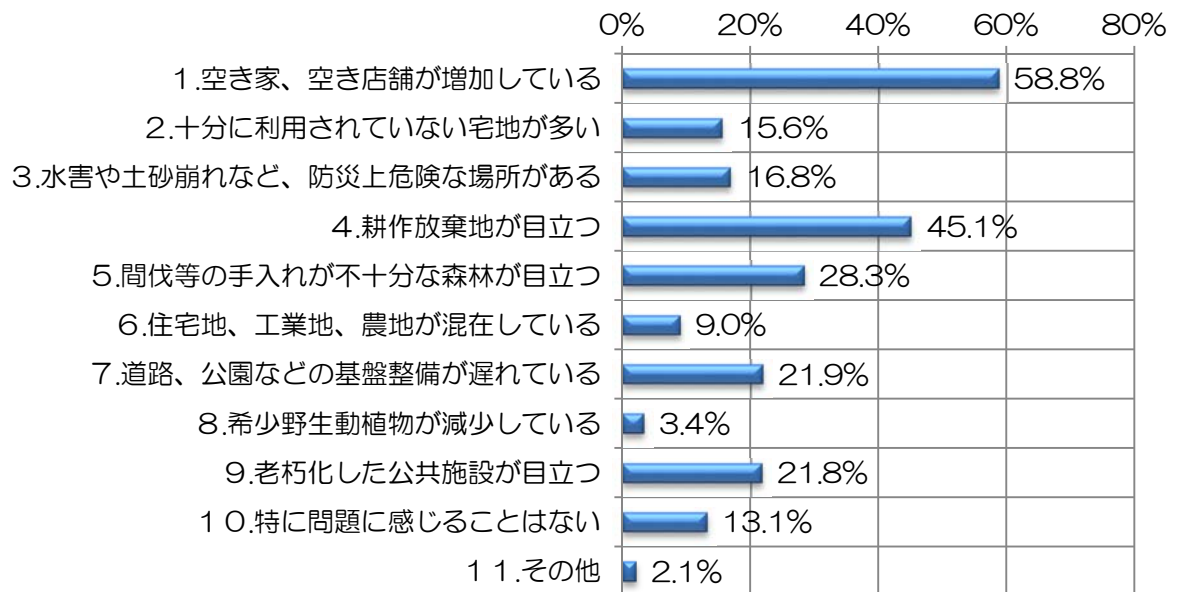
朝日村全体の土地利用について

2 朝日村の土地利用について、どのようなことが問題と感じますか。ご自身の考えに最も近いと思われるものを3つまで選んで、番号に○をつけてください。

◎ 土地利用について、問題と感ずることとして、『1. 空き家、空き店舗が増加している』（58.8%）が最も多く、次いで『4. 耕作放棄地が目立つ』（45.1%）、『5. 間伐等の手入れが不十分な森林が目立つ』（28.3%）の順となっている。

土地利用の問題点

複数回答



※無回答（27）を除いた集計となっている

その他 記述

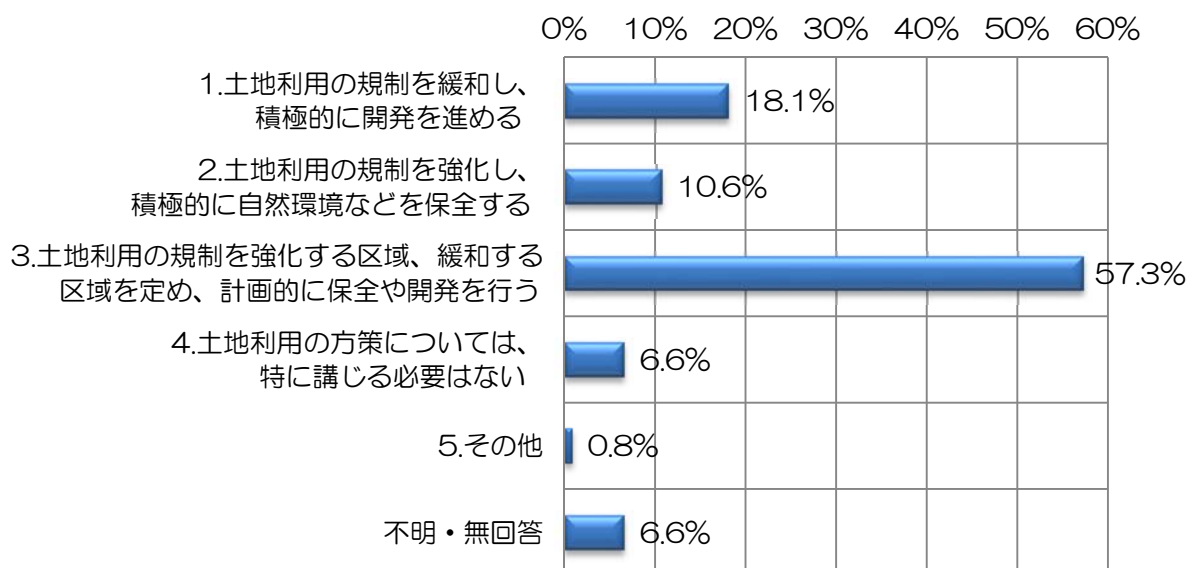
- ・ 外来種のアレチウリなどで覆われた木や花が鎖川沿いに目立つ
- ・ 動物による田畑の作物の被害
- ・ 強風時の砂嵐対策
- ・ ソーラーパネルの増加
- ・ 農地が多く、宅地が少ない。住みやすそうな場所は、農地となっている
- ・ 住宅地の老木、大木が目立つ
- ・ まだ分からない

3 朝日村では、土地の利用について計画的な保全・開発に努めてきましたが、将来に向けた土地の利用の方向について、ご自身の考えに最も近いと思われるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

◎ 将来に向けた土地の利用の方向について、全体の6割近くが『3.土地利用の規制を強化する区域、緩和する区域を定め、計画的に保全や開発を行う』(57.3%)とし、次いで、『1.土地利用の規制を緩和し、積極的に開発を進める』(18.1%)、『2.土地利用の規制を強化し、積極的に自然環境などを保全する』(10.6%)の順となっている。

今後の土地利用の方向性

n=592



その他 記述

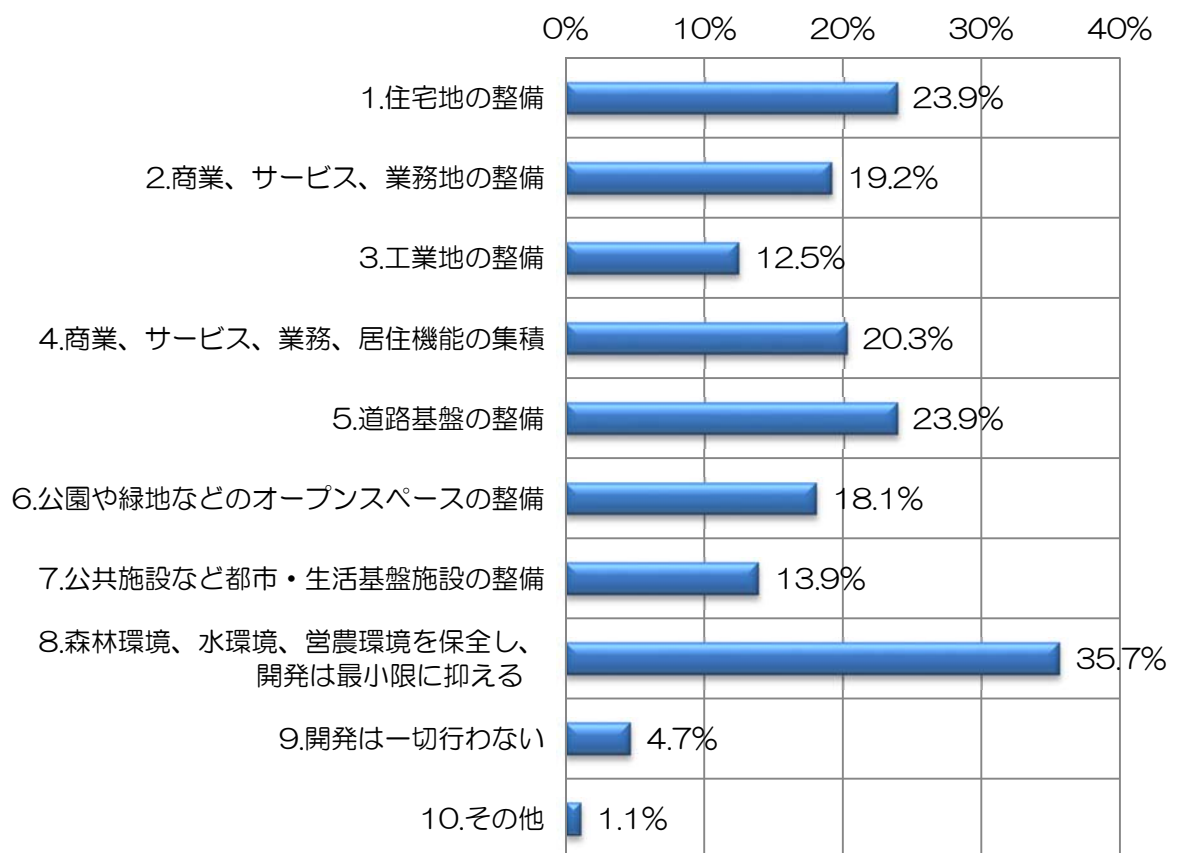
- ・ 必要に応じて開発を進める
- ・ 個人の土地の太陽パネルの設置について、村として指針を示す必要があると思う
木を伐採してまでの設置や、畑を潰してまでの設置は危惧するところである

4 朝日村における土地の利用上、具体的に開発を進めていく方向として、ご自身の考えにもっとも近いと思われるものを2つまで選んで、番号に○をつけてください。

◎ 具体的に開発を進めていく方向として、『8. 森林環境、水環境、営農環境を保全し、開発は最小限に抑える』(35.7%) が最も多く、次いで『1. 住宅地の整備を進める』(23.9%)、『5. 道路基盤の整備を進める』(23.9%) とし、同じ割合となっている。

開発を進めていくための具体案

n=592



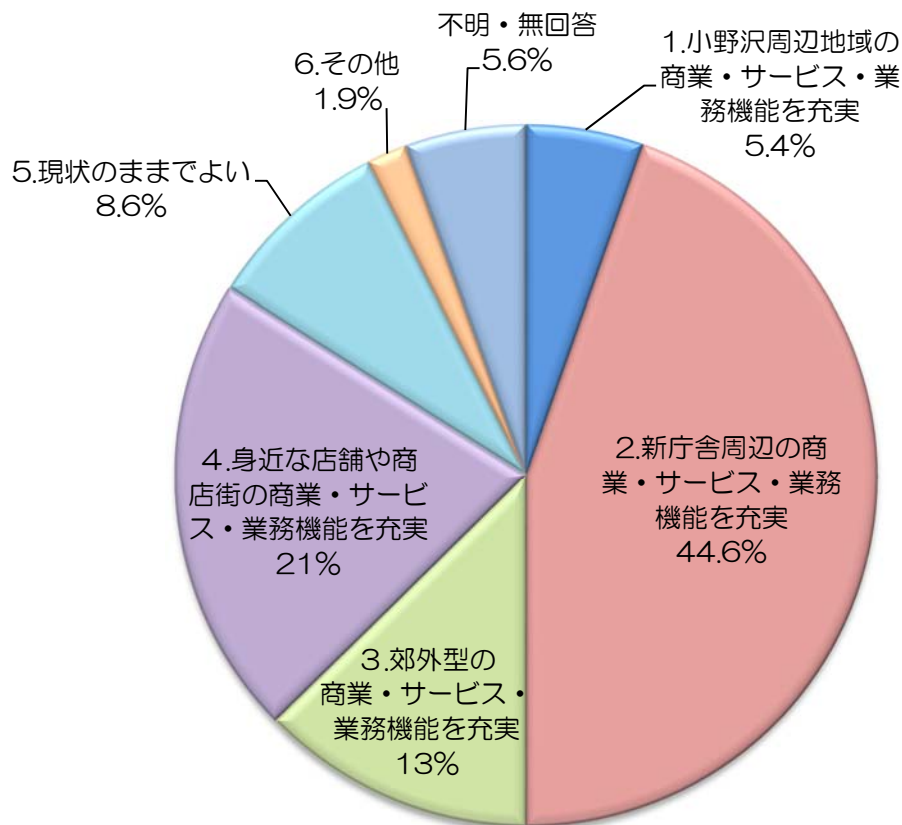
その他 記述

- ・ ソーラーパネルの設置
- ・ 事故、森林火災等に使用するヘリの発着所の設置（村内3ヶ所位）
- ・ 開発は最小限に抑えながらも空き家・耕作放棄地を整理し、必要な住宅地・商業・サービスにあてる
- ・ 施設農業

5 商業・サービス・業務地のあり方について、重要だと感じる施策についてご自身の考えに最も近いと思われるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

◎ 商業・サービス・業務地のあり方について、全体の4割強が『2. 新庁舎周辺の商業・サービス・業務機能を充実させる』（44.6%）とし、次いで『4. 身近な店舗や商店街の商業・サービス・業務機能を充実させる』（21.3%）、『3. 郊外型の商業・サービス・業務機能を充実させる』（12.7%）の順となっている。

商業・サービス・業務地のあり方についての施策 n=592



その他 記述

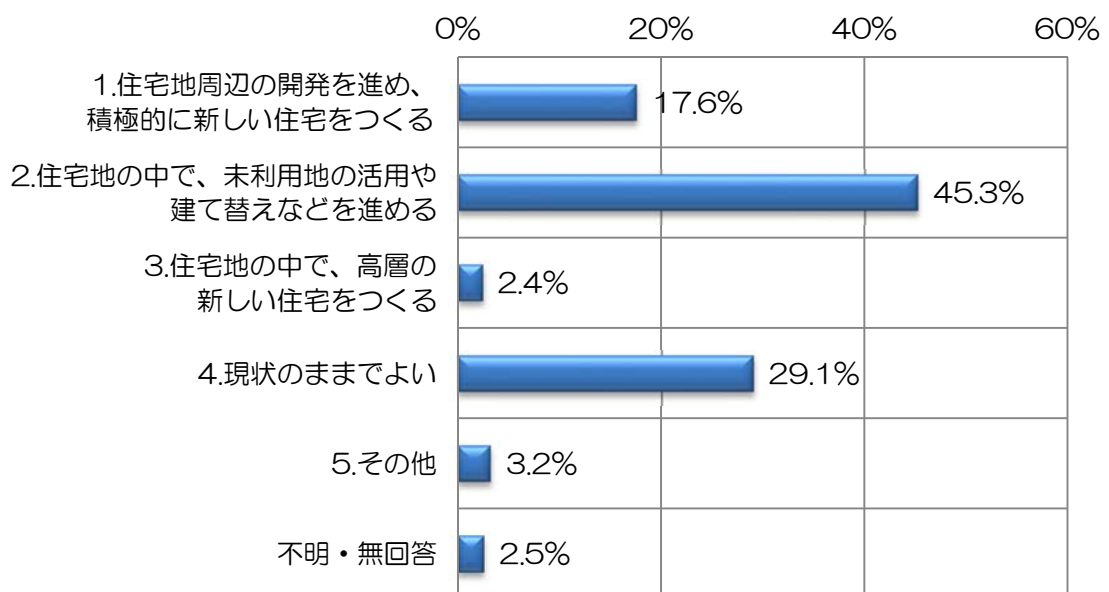
- ・ 交通量が少ない所でサービスを進めても、あまり期待できない
- ・ 交通網を充実させる
- ・ インフラ整備は必要だと思うが、現状の朝日村では良い案が思いつかない
- ・ 新庁舎周辺が望ましいと思うが、営農地区も多くあるので検討が必要
- ・ 医療機関の充実、医院・病院の誘致
- ・ デイサービスなど福祉施設の充実

6 住宅地の整備について、重要だと感じる施策についてご自身の考えに最も近いと思われるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

◎ 住宅地の整備について、重要だと感じる施策として、全体の4割強が『2.住宅地の中で、未利用地の活用や建て替えなどを進める』(45.3%)とし、次いで『4.現状のままでよい』(29.1%)、『1.住宅地周辺の開発を進め、積極的に新しい住宅をつくる』(17.6%)の順となっている。

住宅地の整備に関する施策

n=592



その他 記述

- ・ AED、防犯カメラ、街灯、消防署・警察へのSOSネットワークの設置
- ・ 人の多い地区へ集約する
- ・ 古ければ建て替え修理が必要だが、住宅地周辺の開発は必要に応じて行う
- ・ 安心、安全の防犯カメラ、110番・119番へのボタンがある公衆電話、街灯、AED、村外の人への為にも現在地が分かりやすいように自販機の設置(自販機は災害の際、ドリンクが利用でき、現在地のシールが貼ってある)
- ・ 住宅と農地が混在する地域は、消毒などの苦情があるため、これらを回避する施策
- ・ 必要に応じて農地を宅地にする
- ・ 建築年数を確認しながら、順次、古い建物の建て替えを行う

次頁へ続く

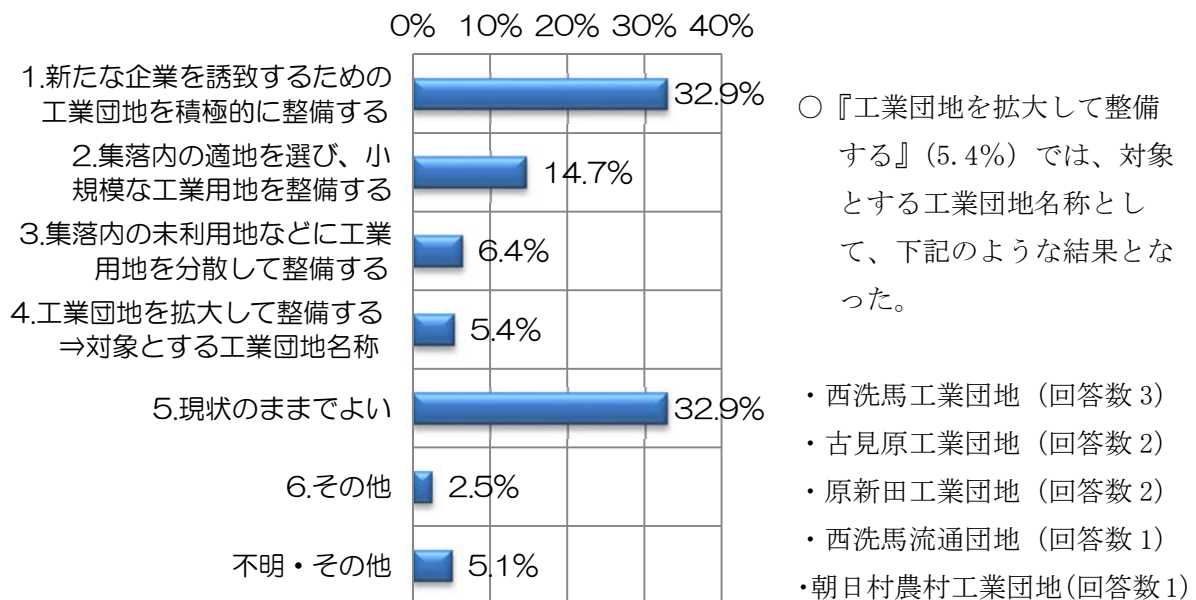
その他続き

- ・ 村の景観を損ねるような建築物を禁止しつつ、住宅地開発を行う
- ・ 農地に隣接した住宅団地等の開発は避ける
- ・ 利便性の良い地域での宅地開発
- ・ 利用があれば作る
- ・ 安定した地盤を確認した上での住宅地の開発
- ・ 村営住宅の整備及び今後の在り方
- ・ 住宅地の中の未利用地の活用や建て替えを進め考慮しながら住宅地周辺の開発を進める
- ・ 二階建てのアパート、シェアハウス、村営住宅をつくる
- ・ 空き家の活用、住宅地の集積を進める
- ・ 高齢の人が一人でも住める環境の住宅を設備し、希望者に貸し出す
- ・ 敷地内から越境した枝葉の規制（特に、交差点角地は見通しが悪く、事故の原因となる）

7 工業地域の整備について、重要だと感じる施策についてご自身の考えに最も近いと思われるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

◎ 工業地域の整備について、重要だと感じる施策として、『1. 新たな企業を誘致するための工業団地を積極的に整備する』(32.9%)、『5. 現状のままでよい』(32.9%) が、同じ割合で最も多くなっており、次いで『2. 集落内の適地を選び、小規模な工業用地を整備する』(14.7%)、『3. 集落内の未利用地などに工業用地を分散して整備する』(6.4%) の順となっている。

工業地域の整備に関する施策 n= 592



その他 記述

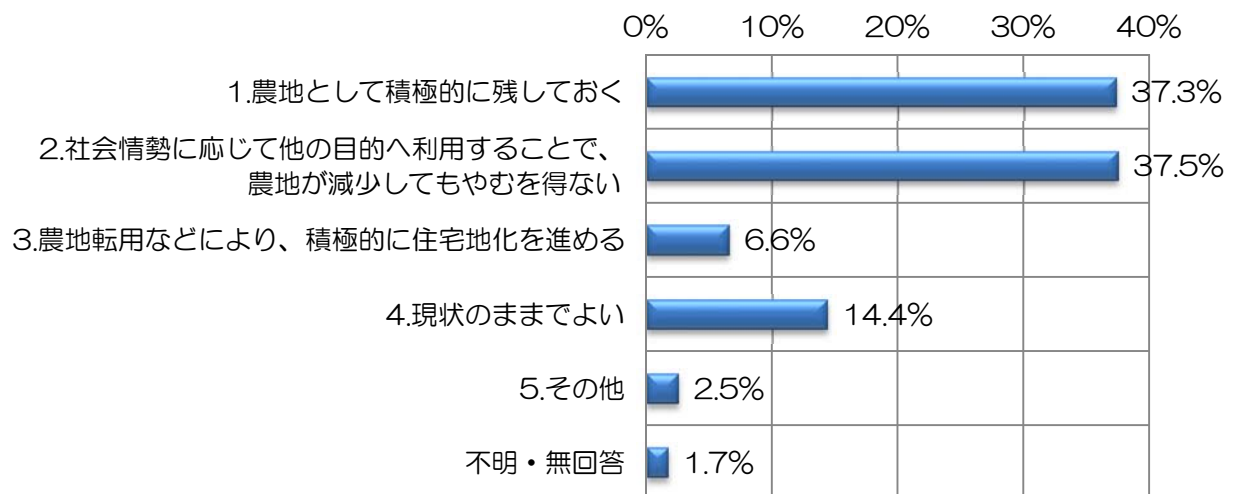
- ・ 集落内に工業用地は不要。住宅内と工業団地は分けて考えるべき
- ・ 工業団地なのに太陽光パネルが出来るのはどうなのか
- ・ 企業誘致をしても企業がくる時代ではないので、農地に影響がないよう、今ある企業との付き合い方を考える
- ・ 農地をつぶしてまで工業団地の誘致をしなくてよい
- ・ 工業団地を造るだけが村の発展につながるとは思わない。農業について、もっと考えても良いと思う
- ・ 企業が来ることを確定させてから整備する
- ・ 住宅地や主要道路との問題をクリアにしていけないと難しい
- ・ 新たに投資しない。農業、森林、スポーツ、観光施設の環境整備
- ・ 工業団地の誘致には賛同する。規模は現在より大きくても良いが、集約してほしい

8 農地について、重要だと感じる施策についてご自身の考えに最も近いと思われるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

- ◎ 農地について、重要だと感じる施策として、『2. 社会情勢に応じて他の目的へ利用することで、農地が減少してもやむを得ない』(37.5%)、『1. 農地として積極的に残しておく』(37.3%) が、ほぼ同じ割合で最も多くなっており、次いで『4. 現状のままでよい』(14.4%) としている。

農地に関する施策（全体）

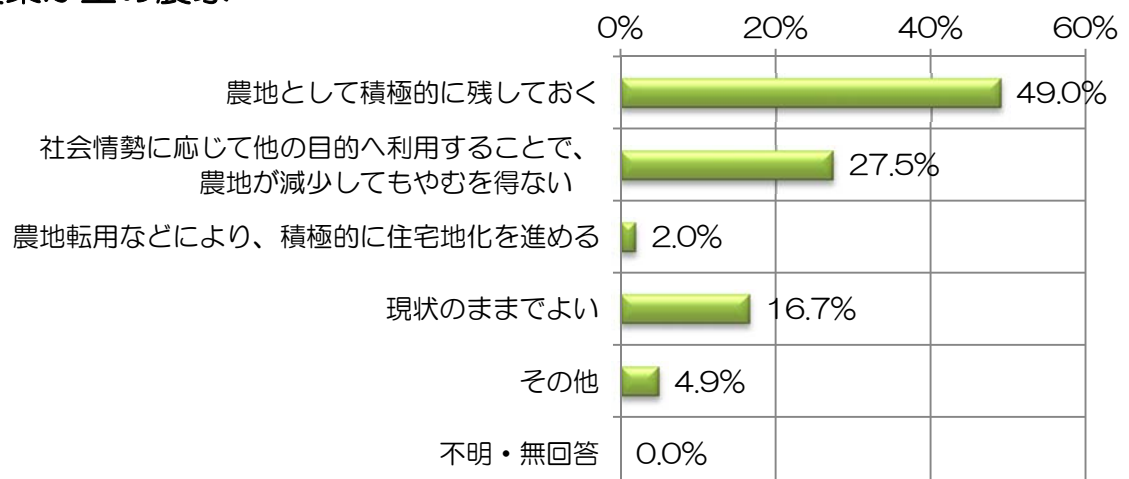
n=592



農業形態別グラフ集計

農業が主の農家

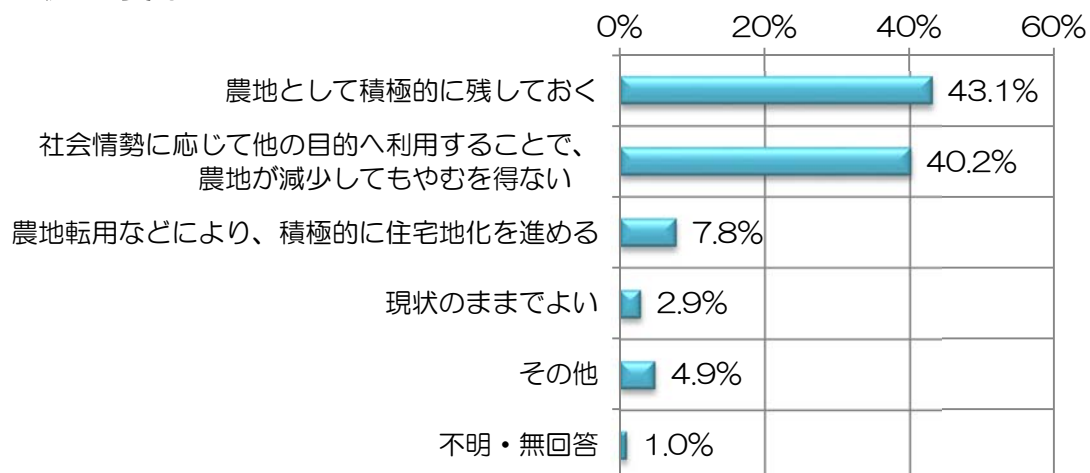
n=102



- ◎ **農業が主の農家**と回答した方が、農地について重要だと感じる施策として、約半数が『農地として積極的に残しておく』(49.0%) としており、次いで『社会情勢に応じて他の目的へ利用することで、農地が減少してもやむを得ない』(27.5%) となっている。

農業が従の農家

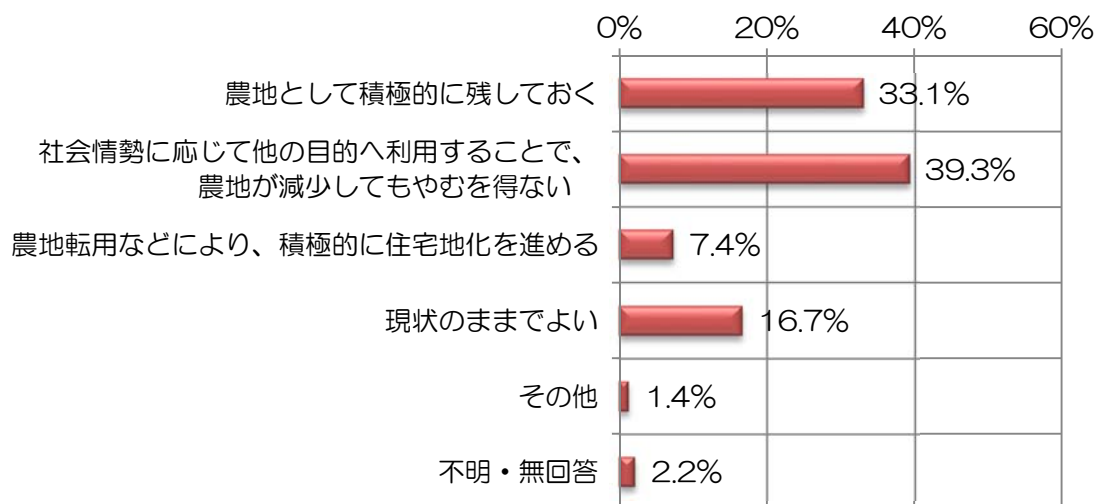
n=102



- ◎ **農業が従の農家**と回答した方が、農地について重要だと感じる施策として、『農地として積極的に残しておく』（43.1%）が最も多く、次いで『社会情勢に応じて他の目的へ利用することで、農地が減少してもやむを得ない』（40.2%）としている。

非農家

n=366



- ◎ **非農家**と回答した方が、農地について重要だと感じる施策として、約4割が『社会情勢に応じて他の目的へ利用することで、農地が減少してもやむを得ない』（39.3%）としており、次いで『農地として積極的に残しておく』（33.1%）としている。

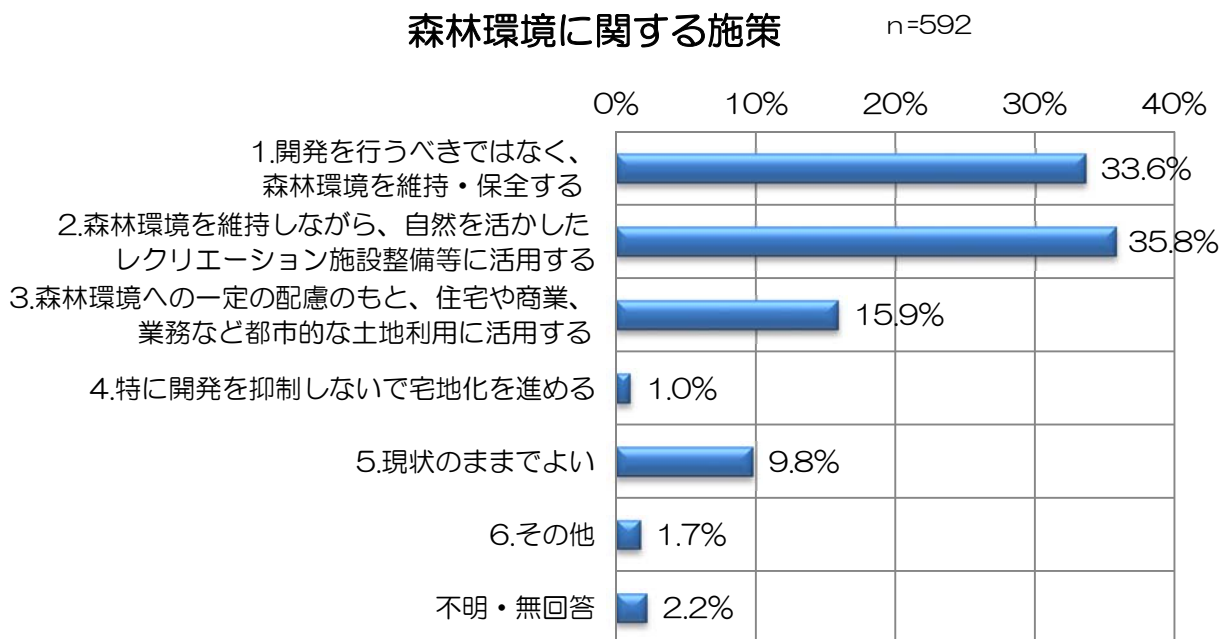
※ 不明・無回答（22）は、農業形態別の集計から外してある。

その他 記述

- ・ 水利のない農地について、柔軟な対応をしてほしい
- ・ 後継者がいれば現状で良いが、いなければ未来の子に役立つ事、物を考えるべき
- ・ 農業主幹の村なら、残す農地に対する施策が必要
- ・ 農地として積極的に残しておくことが望ましいと思うが、現状をよく把握し、農地として貸し出すのか住宅地にするのかなど、検討が必要
- ・ 住宅地と農地を無理のない範囲で共存させる。農地からの消毒、野焼き、肥料等の悪臭がひどい時があり、夏でも窓を開けられない。野焼きの臭いが洗濯物につき住宅街なのに住みにくいと感じることがある。マナーを確立していないと難しい
- ・ 耕作放棄地の他の利用を進める
- ・ 様々な農地利用を考えられるようになると良い
- ・ 休耕地にしない対策を考える
- ・ 保全・開発のエリア分けを行い、効果的な農地を増やす
- ・ 農地として適している場所は積極的に残し、適さない場所のみ他の利用目的へ転換を図る
- ・ 休耕地の利用について、レタス以外の村特産物を考え、活用できない

9 森林環境について、重要だと感じる施策についてご自身の考えに最も近いと思われるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

◎ 森林環境について、重要な施策として、『2.現在の森林環境を維持しながら、自然を活かしたレクリエーション施設整備等に活用する』（35.8%）が最も多く、次いで『1.開発を行うべきではなく、森林環境を維持・保全する』（33.6%）、『3.森林環境への一定の配慮のもと、住宅や商業、業務など都市的な土地利用に活用する』（15.9%）の順となっている。



その他 記述

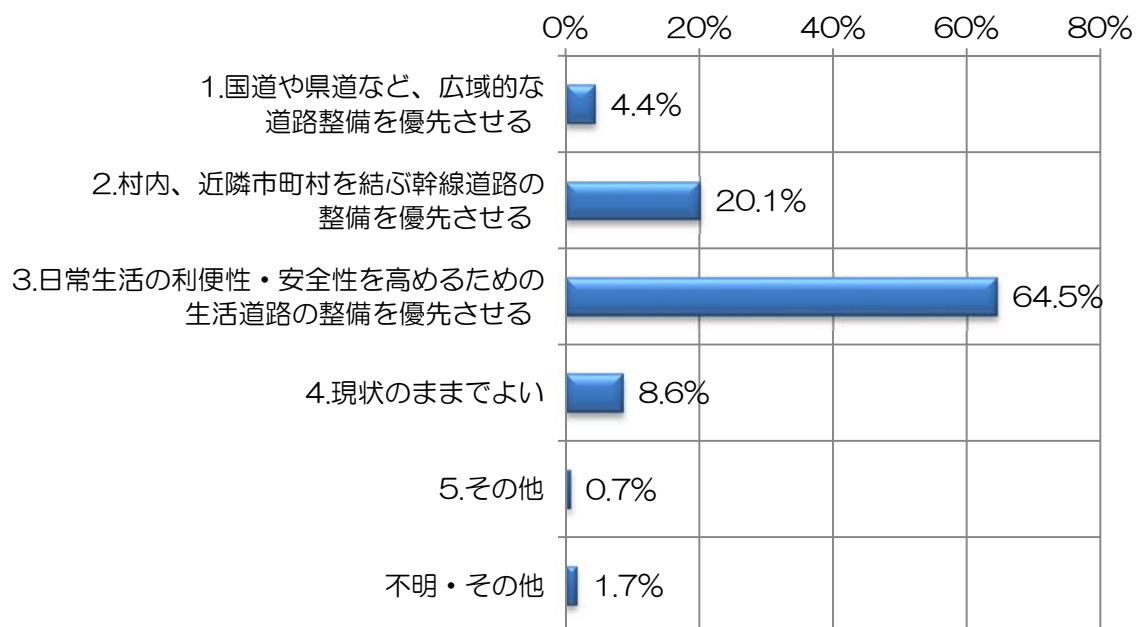
- ・ 残すべき大事な森林があるはず。開発は平地でやるべき
- ・ 木材として利用することを考慮し、利用法を考えるべき
- ・ 森林所有者は、森林整備に努めるべき
- ・ 森林を整備して、バイオマス、新しい技術による間伐材利用等を推進する
- ・ 森林が多い為、火災等の消火を早めるための、ヘリ発着所を設置すべき
- ・ 森林環境を維持しながら、自然を活かした施設、住宅、商業など最小限の整備を行う
- ・ 森林環境を維持、保全する。自然を活かしたレクリエーションの為、林道の整備は必要。施設は不要。鉢盛山小屋の保全、間登男の湯への投資を行う
- ・ 個人の山の整備が困難なこともあり、環境も年々変化してきているので、適した対処をお願いしたい
- ・ 森林の林業への活用
- ・ 木材を利用してチップとして販売する（ストーブに必要）

10 道路整備について、重要だと感じる施策についてご自身の考えに最も近いと思われるものを1つ選んで、番号に○をつけてください

◎ 道路整備について、重要だと感じる施策として、『3.日常生活の利便性・安全性を高めるための生活道路の整備を優先させる』(64.5%)が全体の6割強を占めている。次いで、『2.村内、近隣市町村を結ぶ幹線道路の整備を優先させる』(20.1%)、『4.現状のままでよい』(8.6%)の順となっている。

道路整備に関する施策

n=592



その他 記述

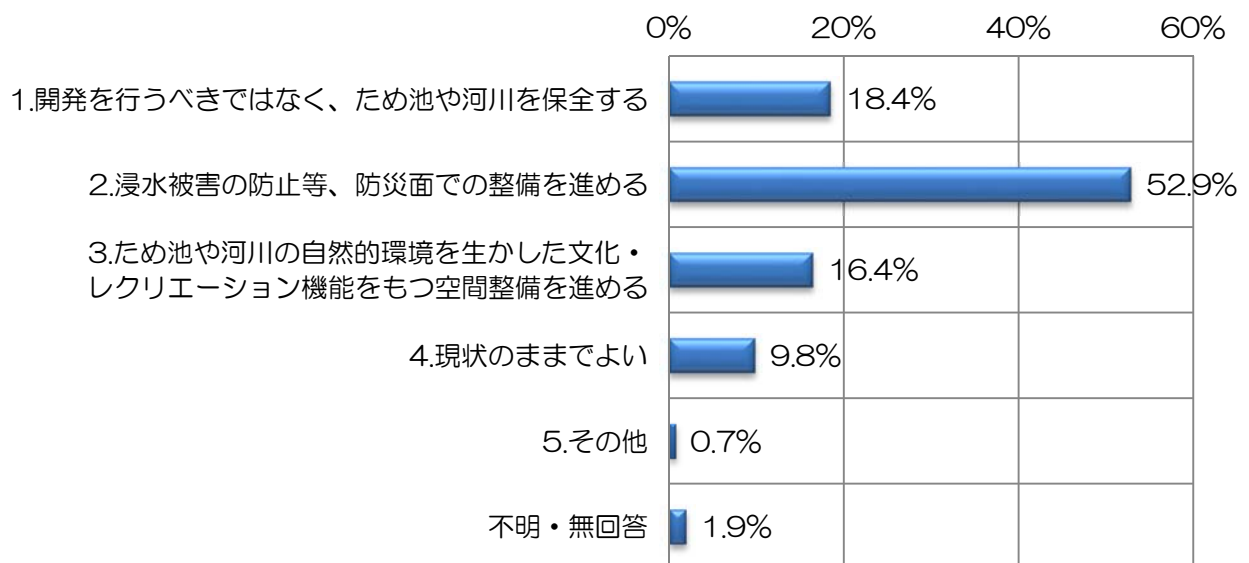
- ・ 保全を優先させる
- ・ どれも重要で選べない。現状の問題に合わせ優先するものを決めていくことが大事

11 村内のため池や河川について、重要だと感じる施策についてご自身の考えに最も近いと思われるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

◎ ため池や河川について、重要だと感じる施策として、全体の約半数が『2. 浸水被害の防止等、防災面での整備を進める』(52.9%)とし、次いで、『1. 開発を行うべきではなく、ため池や河川を保全する』(18.4%)、『3. ため池や河川の自然的環境を生かした文化・レクリエーション機能をもつ空間整備を進める』(16.4%)の順となっている。

ため池・河川に関する施策

n=592



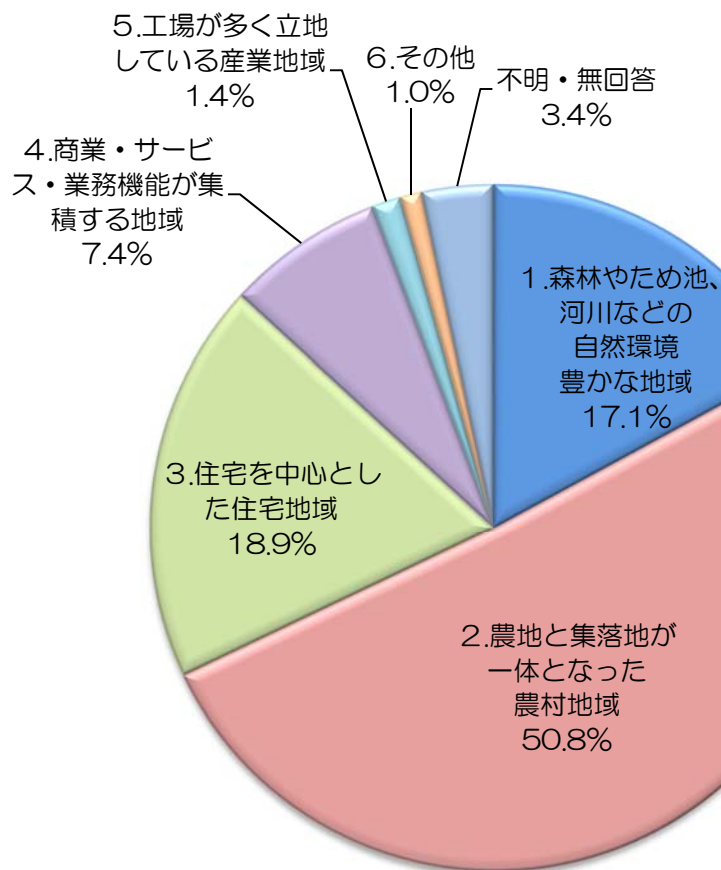
その他 記述

- ・ 河川環境整備を(河原の草刈りなど)して、水に親しめる環境をつくると良い
- ・ 浸水被害の防止、防災面に考慮し、河川やため池周辺に憩いの場があると良い
- ・ 河川の保全、防災整備、草刈りなどの環境整備の充実。大規模投資はしない

12 お住まいの周辺地域の土地利用の現状について、ご自身の考えに最も近いと思われるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

◎ お住まいの周辺地域の土地利用の現状については、全体の約半数が『2. 農地と集落地が一体となった農村地帯』(50.8%)としている。次いで、『3. 住宅を中心とした住宅地域』(18.9%)、『1. 森林やため池、河川などの自然環境豊かな地域』(17.1%)の順となっている。

居住地周辺の土地利用の現状 n=592



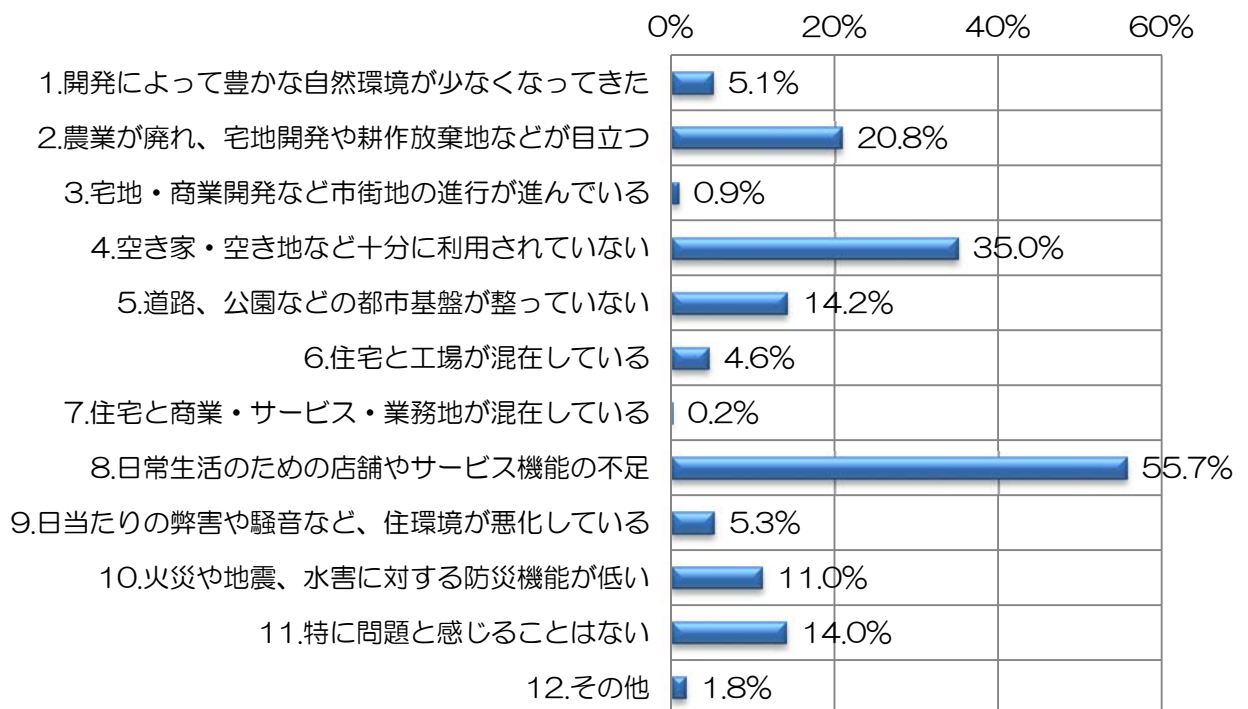
お住いの周辺地域の土地利用について

13 お住いの周辺地域の土地利用について、どのようなことが問題と感じますか。
ご自身の考えに最も近いと思われるものを2つまで選んで、番号に○をつけてください。

◎ お住いの周辺地域の土地利用について、『8. 日常生活のための店舗やサービス機能が不足している』（55.7%）が最も多く、次いで『4. 空き家・空き地など十分に利用されていない』（35.0%）、『2. 農業が廃れ、宅地開発や耕作放棄地などが目立つ』（20.8%）の順となっている。

居住地周辺の土地利用の問題点

複数回答



※無回答（21）を除いた集計となっている

その他 記述

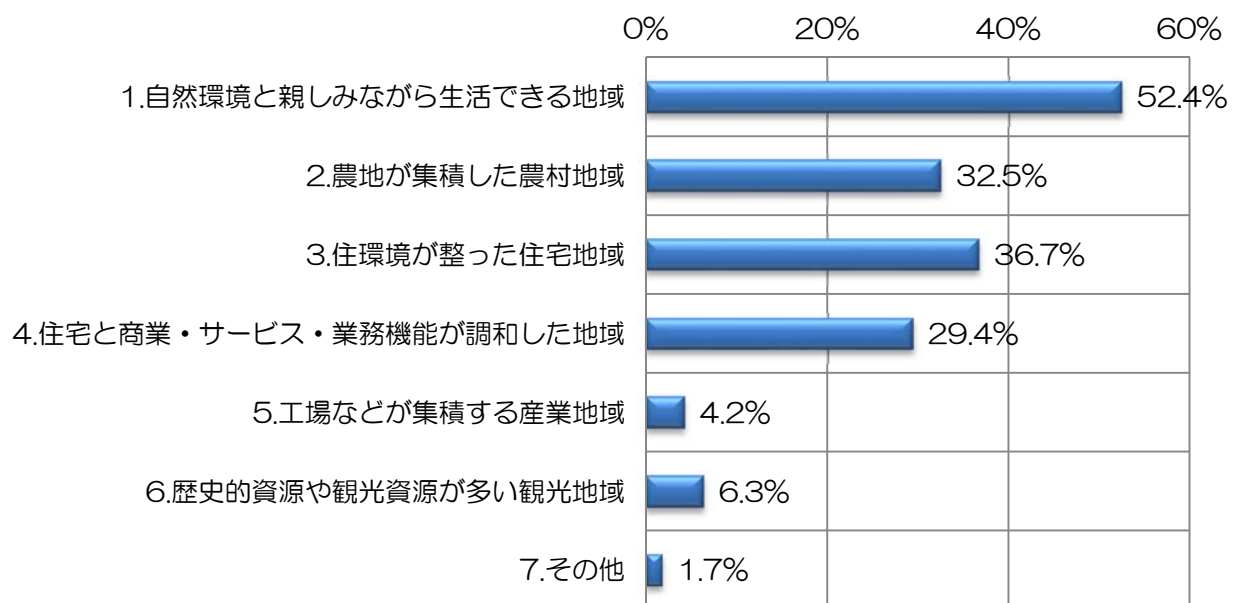
- ・ 密集した住宅地と既存集落がアンバランスである
- ・ 鳥獣による被害が多発している
- ・ 里山が荒れている
- ・ 土地の手入れ不足、草刈
- ・ 農地が守られていない
- ・ 無秩序な開発が進んでいる

14 お住まいの周辺地域の将来像として、どのようなイメージが望ましいと感じますか。
ご自身の考えに最も近いと思われるものを2つまで選んで、番号に○をつけてください。

◎ お住まいの周辺地域の将来像のイメージとして、『1.森林やため池、河川など自然環境と親しみながら生活できる地域』（52.4%）と最も多く、次いで『3.住環境が整った住宅地域』（36.7%）、『2.農地が集積した良好な農村地域』（32.5%）の順となっている。

居住地周辺の将来像

複数回答



※無回答（20）を除いた集計となっている

その他 記述

- ・ 歴史、文化遺産の継承
- ・ 野生動物が出てこない環境
- ・ 朝日村を魅力、活気のある地域にするため、若者を地域で育てる環境づくりを行う
- ・ 住む人が都会化しているので、農家としては、地域とはなりにくい
- ・ 新庁舎周辺にサービスを集積し、冬はスキー場、夏は特産物など朝日村をアピールしていけたら良いと思う
- ・ 朝日村ブランドをつくり、朝日村をアピールする

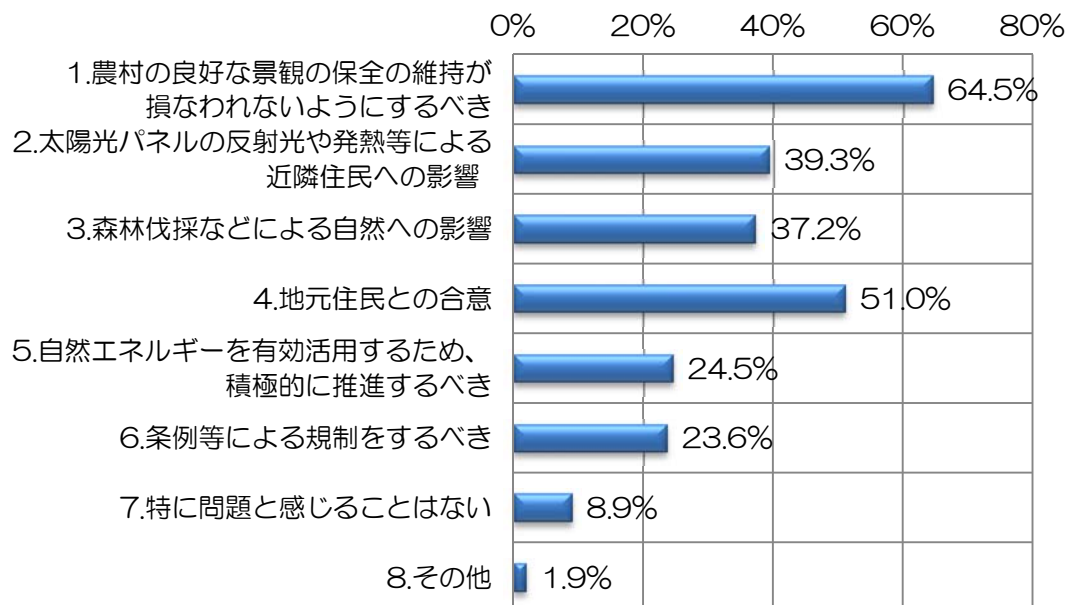
自然エネルギーの推進と景観保全等に係る土地利用のあり方について

15 大規模な太陽光発電施設の設置について、特に重要だと感じることにについてご自身の考えに最も近いと思われるものを3つまで選んで、番号に○をつけてください。

◎ 太陽光発電施設の設置については、『1.農村の良好な景観の保全の維持が損なわれないようにするべき』(64.5%)が最も多く、次いで『4.地元住民との合意』(51.0%)、『2.太陽光パネルの反射光や発熱等による近隣住民への影響』(39.3%)の順となっている。

太陽光発電施設の設置についての重要度

複数回答



※無回答(20)を除いた集計となっている

その他 記述

- ・ 太陽光パネルには問題点が多々ある。住居の傷み、方向(屋根の向き)、負担額、場所に問題あり
- ・ 十数年後に電池寿命が来ることも考慮に入れ計画を考えるべき
- ・ 太陽光発電による村の電気使用をまかなう
- ・ 耐用年数を過ぎたパネルの事など、保守保全について長期的な計画が必要
- ・ 個人的に推進しない
- ・ 一時的ブームで、将来性があるのか心配
- ・ 農業用水に小型の水力発電を設置する
- ・ メリットが分からない